

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1回	講義概要 ・講義の目的と全15回の学習内容を解説し、受講者の講義選択の判断材料とする ・今後の授業の進め方に反映するために、受講者のPM経験を確認する【演習】PM経験	—	対面
	第2回	プロジェクトとは何か、プロジェクトマネジメント（PM）とは何かを学ぶ ・プロジェクトとは、PMとは何か ・PMの世界標準【演習】ハーマンモデルによるチーム作り	—	対面
	第3回	PMBOK®の全体像と前提条件、ステークホルダーマネジメントを学ぶ ・プロジェクトマネジメントの歴史、PMBOK®ガイドの知識体系(10の知識エリア、5つのプロセス) ・プロジェクトマネジメントの前提条件 ・ステークホルダーマネジメントとは【演習】ステークホルダーを考える	—	対面
	第4回	プロジェクトの事例を考える【レポート提出】 ・プロジェクトのミッション、ビジョンとは ・経験したプロジェクトにおいて、成功と失敗を考える【演習】プロジェクトの成功と失敗	—	対面
	第5回	スコープ・マネジメントとは何かを学ぶ ・スコープとは何か(成果物と活動)、スコープ計画、定義、検証とコントロールの手順を理解する	—	対面
	第6回	スコープ・マネジメントの手法を学ぶ ・WBS(ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー)の作成方法を理解する。 【演習】WBS	—	対面
	第7回	タイム・マネジメントとは何かを学ぶ ・作業を定義し、作業順序を設定する(PDM(プレジデンスダイヤグラム法)) ・アクティビティの所要時間、資源を見積もって、スケジュールを作成する 【演習】PDM	—	対面
	第8回	コスト・マネジメントとは何かを学ぶ ・コスト見積りと予算化、コストコントロールを理解する(EVT)【演習】EVT	—	対面
	第9回	品質マネジメントとは何かを学ぶ ・プロジェクトにおける品質マネジメントの考え方、手法を理解する 【演習】なぜなぜ分析	—	対面
	第10回	人的資源マネジメント、コミュニケーション・マネジメントとは何かを学ぶ ・人的資源計画、どのようにチームを作り、育成するかを理解する ・コミュニケーション計画やその実行を理解する【演習】要員管理	—	対面
	第11回	リスクマネジメントとは何かを学ぶ ・リスクの考え方、リスク識別、リスク分析と対策を理解する【演習】リスク	—	対面
	第12回	プロジェクト・マネジャーに必要なヒューマンスキルとは何かを学ぶ ・リーダーシップ、コーチング、メンタリング、ファシリテーションの基本を理解する【演習】 項目ごとに実施	—	対面
	第13回	事例検討 ・自らのプロジェクト事例に基づいて、問題解決の方策を検討する【演習】事例検討	—	対面
	第14回	調達マネジメント、統合マネジメントとは何かを学ぶ ・調達マネジメントにおいて考慮すべきポイントを理解する ・プロジェクトマネジメント計画の策定、実行と監視コントロール、変更管理の考え方を理解する	—	対面
	第15回	本講義のまとめと実際のプロジェクトマネジメント活用に向けた考え方を学ぶ ・発表 ・まとめ【レポート】	—	対面
	試験	試験は実施しない 最終発表、講義レポート、第4・15回のレポートで評価する	—	対面
成績評価	次の3つのポイントで評価する(合計100点満点) 1.講義レポート 毎回提出する講義レポートの記述内容で評価する：20点 2.課題(提出期限などのルール準拠度、提出点、内容) ・第4回講義後 課題チーム、課題個人：20点満点 第15回講義後 レポート：40点満点 3.プレゼンテーション(発表内容)20点満点			
教科書・教材	LMSで配布するので、各自授業前にダウンロードすること			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOKガイド)第5版』(PMI、2012年) IPA、『情報処理技術者スキル標準プロジェクトマネージャ』 <a href="http://www.jitec.jp/1_17skill/pdf20040329/FE0329.pdf">http://www.jitec.jp/1_17skill/pdf20040329/FE0329.pdf</a> IPA,PM 育成ハンドブック <a href="http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/activity/PM_com.html">http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/activity/PM_com.html</a>			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	○	コミュニケーションマネジメントの知識及びスキル	
	継続的学修と研究の能力	◎	知識エリアごとの知識とプロセスに沿った行動の進め方	
	チーム活動	◎	毎回のチーム演習を通じたチームとしての活動	
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	—		
	ドキュメンテーション	—		
	革新的概念・発想	—		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	—		
	問題解決	○	リスク分析とその対策、品質などの問題のなぜなぜ分析	
	リーダーシップ・マネジメント	△	リーダーシップの基礎知識	
	ファシリテーション・調整	△	ファシリテーションの基礎知識	

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	2Q
科目群	マネジメント系科目群	科目名	プロジェクト管理特別講義			教員名	酒森 潔
		(英文表記)	Project Management Practice				

概要	<p>プロジェクト管理の基本は、実行可能な計画を立てること、およびその計画に基づいてプロジェクトを実施することである。この講義は受講者がプロジェクトマネジャーとなって仮想のプロジェクトを体験する。プロジェクトはオンライン形式で実施されるが、プロジェクト管理の基本となるさまざまな管理指標の使用法やプロジェクト実施中の試練が組み込まれており、実プロジェクトさながらの臨場感でプロジェクトの実施を体験できる。シミュレータを通して、プロジェクト実施中の管理項目見方や、リスクや課題に対する対応方法を学ぶことで、受講者はプロジェクト計画の重要性と、プロジェクト実施中の適切な対応能力を身に着けることができる。</p>			
目的・狙い	<p>本講義は IT プロジェクトの計画を立て、リアルタイムのプロジェクトシミュレータを使って実践をおこなうことで、プロジェクト実行においてどのようなことが起こるか理解することを第 1 の目標とする。さらにチームで話し合いながら目標をもってプロジェクトを進めるので、チーム活動に必要なコミュニケーション力や判断力も養うことを狙いとする。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A3) K-05-14-01: プロジェクトマネジメント (レベル 3) プロジェクト、プロジェクトマネジメント、プロジェクトの環境</p> <p>(A3) K-05-14-02: プロジェクト統合マネジメント (レベル 3) プロジェクト計画の作成、プロジェクト作業の指揮、プロジェクト作業のコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-03: プロジェクトステークホルダマネジメント (レベル 3) ステークホルダの特定、ステークホルダの管理</p> <p>(A3) K-05-14-04: プロジェクトスコープマネジメント (レベル 3) WBS の作成、アクティビティの定義</p> <p>(A3) K-05-14-05: プロジェクト資源マネジメント (レベル 3) プロジェクトチームの結成、プロジェクトチームの管理</p> <p>(A3) K-05-14-06: プロジェクトタイムマネジメント (レベル 3) スケジュールの作成、スケジュールのコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-07: プロジェクトコストマネジメント (レベル 3) コストの見積り、予算の編成、コストのコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-08: プロジェクトリスクマネジメント (レベル 3) リスクの特定・評価・対応、リスクのコントロール</p> <p>(A3) K-05-14-09: プロジェクト品質マネジメント (レベル 3) 品質の計画、品質保証の実施、品質コントロール</p> <p>(A3) K-05-14-10: プロジェクト調達マネジメント (レベル 3) 調達の計画、サプライヤの選定、調達の管理</p> <p>(A3) K-05-14-11: プロジェクトコミュニケーションマネジメント (レベル 3) コミュニケーションの計画、情報の配布</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>情報処理システムの開発の経験があり、またプロジェクト管理について十分な知識があること。</p>			
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>プロジェクトには、予定通りには進まない様々な制約やリスクが潜んでおり、それらの対応方法には正解は無く、プロジェクトごとにあるいは実行中の状況や場面によって異なるものであるということを理解する。そして状況に応じた適切な判断を自ら行う事が出来るようになる。</p>			
	<p>最低到達目標</p> <p>リアルタイム型の擬似プロジェクトを実践し、状況判断、問題分析、タイムリーな解決策の策定などプロジェクトマネジメント能力が重要なことを理解できる。</p>			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	○	指定日の講義は録画受講が可能	
	対面授業	講義 (双方向)	—	
		実習・演習 (個人)	—	
		実習・演習 (グループ)	◎	シミュレータ実施やグループディスカッションの日は出席必須
サテライト開講授業	○	指定日の講義はサテライト受講可能		
その他	—			
授業外の学習	<p>講義の前には事前に配布する授業のレジュメを読んでくること。</p> <p>講義後は毎回配布する復習レポートに、授業のまとめ・意見を書いて提出すること。</p> <p>シミュレータの実施練習を指示された方法で各自行ってくること。</p>			
授業の内容	<p>講義は 2 コマ連コマ方式で行う。事前にプロジェクトマネジメントの基礎的な講義を受けたのち、STS 社のプロジェクトのオンラインシミュレータを 4 人 1 チームで実施する。事前学習やシミュレータ実施を通じてプロジェクトマネジメントのコンピテンシーを身に着けることが目標である。身についたコンピテンシーについてチームで議論することでさらに理解を深め、最終発表会で他のチームの成果を共有する。グループ演習は原則対面であるが、指定日については録画受講、サテライト受講が可能である。</p>			

	回数	内容	サテライト 開講	対面/録画
授業の計画	第1回	本講義のガイダンスとシミュレータの概要：本講義の受講に関する注意事項の説明、および使用するシミュレータの概要について説明する。	有	録画
	第2回	プロジェクトの基礎知識の講義：プロジェクトの基礎知識の講義をおこなう。この後のシミュレータ演習を行うための最低限のプロジェクトマネジメントスキルについて共通認識を行う。講義後スキル診断の宿題を出すので期限内に提出すること。サテライト受講、ビデオ受講の学生はスキル診断の結果を受講確認とする。	有	録画
	第3回	スケジュール作成や進捗管理に関する講義：プロジェクトの基本の中で、今回のシミュレータのコアとなるスケジュールの考え方、ステークホルダーマネジメント、リスクマネジメント、EVM などについて解説する。	有	録画
	第4回	シミュレータプロジェクトについての説明：本講義で実施するリアルタイムシミュレータについてその目的や制約などについて説明し、このシミュレータの使い方、考慮すべき点なども解説する。	有	録画
	第5回	シミュレータプロジェクトの準備：最初にグルーグループ編成を行う。その後グループでシミュレータプロジェクトについて理解しプロジェクト計画を作成する。計画に当たってはこのシミュレータプロジェクトの特性を考えた計画になるよう話し合う話し合う。	—	対面
	第6回	シミュレータの設定（計画作成）：実際にシミュレータを立ち上げ、チームでプロジェクトの特性を確かめる。後半はシミュレータをスタートしプロジェクト計画を設定する。	—	対面
	第7回	シミュレータプロジェクト前半部分の実行：最終的なシミュレータの設定を確認し、シミュレータの前半部分を実施する。プロジェクト実施に必要なPMとしての判断対応を実践する。またEVMによるプロジェクト管理にもチャレンジする。	—	対面
	第8回	シミュレータ前半実施結果の検討：シミュレータの前半部分を終えて、途中結果の分析を行う。プロジェクトの実施中にどのようなことが起きてそれに対する対応の結果がどうであったかをチームで話し合う。	—	対面
	第9回	シミュレータ前半部分のまとめ：グループでシミュレータの前半部分の結果のまとめを行い、EVMによる活動報告、品質管理の見直し、要員とコミュニケーション、リスクマネジメントなどを行う。	—	対面
	第10回	シミュレータ後半部分実施に向けての戦略策定：グループごとに前半の反省点を踏まえ、シミュレータの後半の設定を行う。	—	対面
	第11回	シミュレータプロジェクト後半の実行：グループでシミュレータの前半部分の反省に基づき、後半部分の計画の見直しや戦略の策定をおこなったのち、後半部分を実施する。終了後実行結果について分析のための資料を収集する。	—	対面
	第12回	シミュレータ実施結果に対する分析：各チームごとにシミュレータの結果に関して分析し、課題や問題点を洗い出す。教員より各チームのシミュレータ全体の実施結果に対する講評を行い、反省すべき点や注意すべき点を説明する。	—	対面
	第13回	シミュレータによって学んだことのまとめ1：チームごとにシミュレータの結果や学んだプロジェクトマネジメントのポイントについてまとめる。	—	対面
	第14回	シミュレータによって学んだことのまとめ2：チームごとにシミュレータの結果や学んだプロジェクトマネジメントのポイントについてまとめ、発表資料を作成する。	—	対面
	第15回	シミュレータによって学んだことの発表：チームごとにシミュレータの結果や学んだプロジェクトマネジメントのポイントについて発表する。	—	対面
	試験	本講義で学んだプロジェクトの実践において重要な計画要素や、実施中の判断力を問う問題を記述方式と、択一方式で出題する。	—	対面
成績評価	次の項目の合計 100 点満点で評価する 1 各演習の発表資料 40 点（グループ作業や発表後、個人で作成し提出） 2 期末試験 60 点			
教科書・教材	教科書は特に指定しない 録画講義可能な講義回は資料を LMS システムで配布するので、各自授業前にダウンロードすること。			
参考図書	PMI 著、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第5版』 『情報処理技術者スキル標準』 <a href="http://www.jitec.jp/1_17skill/pdf20040329/FE0329.pdf">http://www.jitec.jp/1_17skill/pdf20040329/FE0329.pdf</a>			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	○	チームでブレインストーミングを実践する	
	継続的学修と研究の能力	—		
	チーム活動	○	チーム活動によるプロジェクトの疑似体験を行う	
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	—		
	ドキュメンテーション	—		
	革新的概念・発想	—		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	—		
	問題解決	—		
	リーダーシップ・マネジメント	○	プロジェクトを成功させるためのリーダーシップを学ぶ	
	ファシリテーション・調整	○	チーム演習の機材や実施準備を通じてファシリテーションを学ぶ	

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	選択	単位	2	学期	2Q
科目群	マネジメント系科目群	科目名	情報ビジネス特別講義 2			教員名	小酒井 正和
		(英文表記)	Finance and Account				

概要	<p>これからは、IT 従事者自らがビジネス戦略へ大きな影響力を持つべきである。近年では組織の戦略をマネジメントする手法としてバランスト・スコアカード（BSC）がブームとなっているが、そこでも IT 投資マネジメントの話が論じられている。現在の企業環境を考えると、IT 従事者とはいえ、組織の戦略マネジメントと関連づけて、会計情報をどう活用するかを習得しておく必要がある。本講義では、普段の業務では慣れない会計・財務というジャンルについて、マネジメントのための情報として捉えた活用方法について総論として学習することを方針とする。</p>			
目的・狙い	<p>本講義では、マネジャーとして IT に関わる人材を想定した会計データの取り扱いスキルを習得するとともに、会計データによる意思決定と業績評価の二側面からの知識習得を目指す。最終的には、BSC と結びつけた IT 投資マネジメント能力の習得をめざす。具体的に、学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得できる。</p> <p>修得できる知識単位:</p> <p>(A3) K-09-22-03: 会計・財務（レベル 4）</p> <p>(A4) K-07-18-01: システム化計画（レベル 4） 開発投資対効果、投資の意思決定法、IT ポートフォリオ</p> <p>(A2) K-08-19-01: 経営戦略手法（レベル 4） 競争戦略、コアコンピタンス、企業理念</p> <p>(A2) K-08-19-02: マーケティング（レベル 4） マーケティング手法、マーケティング分析</p> <p>(A2) K-08-19-03: ビジネス戦略と目標・評価（レベル 4） 戦略目標、CSF、KPI、KGI、バランスコアカード</p> <p>(A2) K-08-19-04: 経営管理システム（レベル 4） CRM、SCM、ERP</p> <p>(A2) K-08-21-02: エンジニアリングシステム（レベル 4） 生産管理システム、MRP</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>特に履修のための条件はないが、シニアマネジャーとして IT をマネジメントする視座を得たいと考える人が履修することが望ましい。</p>			
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>BSC の構築に必要な戦略マップおよびスコアカードの作成ができる。</p> <p>BSC に関連づけた戦略的な IT 投資のポートフォリオを構築できる。</p>			
	<p>最低到達目標</p> <p>組織に対する業績評価の仕組みを説明でき、適切な指標の設定ができる。</p> <p>会計データを用いた意思決定支援情報の作成と判断ができる。</p>			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	—		
	対面授業	講義（双方向）	○	双方向、多方向に行われる討論や質疑応答。
		実習・演習（個人）	○	課題をエクセル等を用いて計算しながら解答する。
		実習・演習（グループ）	—	
サテライト開講授業	—			
その他	—			
授業外の学習	<p>授業外での学習として、各授業前に提示しておく資料を読んでくること。それと同時に、計算課題のあった授業回では、計算問題の復習をしておくようにしてほしい。</p>			
授業の内容	<p>講義では、まず基礎的な会計的、コスト的な考え方を習得する。そののちにレベルを上げて行く形式をとる。2 回続きの授業形態であるので、奇数回は毎回配布する資料を使用して討論や質疑応答などを交えて講義を行う。また、偶数回にて課題を解く演習を行いながら、討論や意見交換をする。講師を含め受講者同士で意見交換・情報交換をしてお互いを高めていきたい。所定の課題については、授業ごとに提出する。なお、会計に関わる基礎部分から学習を始めることを前提としているので、それを納得の上、学習プランを立てていただきたい。</p>			